

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100447		
法人名	メイプルケア有限会社		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	福井県福井市大宮4丁目13番1号		
自己評価作成日	平成 28年 7 月 25 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に地域との交流に力を入れ、地域の神社祭りや公民館主催の祭りに参加したり、また、毎年8月にはグループホームと併設しているデイサービスセンターとの合同で夏祭りを開催し、香山地区から地元の高・中・小学校生徒によるボランティアを始め、多数の住民参加により心の通った行事を開催している。また、グループホームの防火訓練のみならず、地区防災訓練に参加し、地域に密着した活動にも積極的に参加をしている。ホーム内では、スタッフは常に入居者1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉使いや対応に十分配慮している。(入居者一人ひとりの生活歴の尊重、さりげないケア、本人の対話能力に応じた問いかけ方法、本人の行動は否定しない等)、さらに、入居者と同じ悩みを一人で抱え込まないよう在宅での認知高齢者が集える場所として、共用型認知通所介護利用者3名を日々受け入れしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成28年9月14日		

事業所は、私鉄沿線の駅近くに位置し、従来からの住宅と新興住宅が混在した地域で公園も近く、気軽に外出が出来る環境にある。木造平屋の建物の内部は木目を基調に温かな雰囲気、利用者が一日の多くの時間を過ごす居間兼食堂は、天井から差し込む明かりが心地よく、開放的な共用空間となっている。利用者は、地区小学校の運動会に出かけたり、職員の知人を通じて幼稚園児の訪問を得たりと積極的に外部との交流が図られている。事業所としても、中学生のボランティア体験の受け入れや、老人会に会議室を開放する等、地域貢献を行っている。また、職員の人材育成のため研修や資格取得に力を入れるとともに、内部研修の中で介護の質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「私たちは、利用者の人権を尊重し、一人ひとりの自立を支える環境と、地域に愛されるホームを目指します」の下に、全職員がその理念の共有に努めるため、ホーム内に掲示し、かつ、毎朝のミーティング時に唱和し、実現に取り組んでいる。	管理者をはじめ、職員は地域密着型サービスの視点に基づいた母体法人の理念を元に、毎年事業所独自の目標を掲げ、毎日の申し送りの中で振り返りを行いながら、その人らしい生活の支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会に加入し、地域の奉仕活動には積極的に参加している。また、自治会の防災訓練にも参加し、毎年、8月中旬には地域交流を深めるためのイベントとして夏祭りを開催し、地域住民に定着している。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。事業所の行事は、近隣地区に案内を戸別配布し、参加を募っている。また、事業所の会議室は地域に開放し、老人会の会議などに利用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と近隣の散歩や食材の調達には徒歩で同行することで、地域の方と顔なじみになったり、また、広報誌の配布により認知症の方への理解や支援の方法が伝わるよう日々の生活の中で地域の人々に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間隔で運営推進会議を開催し、その際、議場で事業所から入居者に対する現況サービスの取組みや報告を行うとともに、推進委員の方々からの質問、意見及び要望を受け、話し合いの場を通じて当該サービスの向上に生かしている。	自治会長・公民館長・家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員で構成し、参加者の意向で次期開催日を決定している。運営推進会議では積極的に意見交換がなされ、運営やケアに活かしている。	運営推進会議を受けて改善された事例など議事録を整備し、参加できない家族へ発信する等、より事業所を身近に感じてもらえるような取組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本市地域包括ケア推進課の職員と密接に連絡を取り、分からない点などをお聞きしている。また、地域包括支援センター職員に事業所運営の相談にのっていただいている。介護相談員は2カ月に一度訪問している。	市担当課職員が適宜訪問し、困難事例などを相談できる良好な関係を築いている。地域包括支援センター職員とは連絡や相談を日常的に行い、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを入所契約書に掲げ、施設内での内部研修に職員が参加した際には全スタッフに対しても身体拘束をしないケアの周知徹底を行っている。また、玄関の施錠に関しては、夜間のみ行なうようにしている。	身体拘束をしないケアについて内部研修などを行い、職員の理解を深めている。帰宅願望や外出の兆候が見られる利用者には、職員間で連携を図り、一緒に散歩する等の支援を行っている。申し送りやスタッフ会議の中で振り返りを行って日々の支援が適切となるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフには研修や勉強会に参加してもらい、日常生活においても虐待行為に当たるような対応が行われないように常に気を張り指導し、また勉強会を行っている。時には、認知通所を利用されている介護者の方にも虐待防止の話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング後に行う研修で、利用者の権利擁護について学んでいる。また、成年後見制度や自立支援事業等の活用ができないか利用者個別に検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を書面上で十分に説明し、疑問点などについても説明し、理解を得ている。また、利用者や家族からの不安な事や要望などは全て記録し、サービスに反映させている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見を得るため意見箱を設置しており、また、時には全職員がミーティング等で情報を共有するよう心がけ、その場で改善が可能な内容であれば即反映できるよう対応している。	家族の面会時には意見の言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。来所されない家族には、電話やメールを通じて要望や意見を聞き、可能な限り運営に活かしている。また、利用者には意見や要望を言いやすいような声掛けをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や役職会議を月1回開催し、意見交換をしている。その際、改善などスタッフに意見を求め、聞く機会を設けながら事業運営に反映させている。	管理者、リーダーは職員が意見を言いやすい環境作りに努めるとともに、事業所は年2回の部長面談時に職員が提案できる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場作りと向上心を高めるため、年に2回は県外へのバス旅行・食事会を実施し、また、年4回の施設内研修にはスタッフ全員が参加し、軽食を提供しながらの意義ある講義を通して全スタッフがその情報等の共有に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自に合った研修の参加、福祉関連資格等への挑戦も随時促している。又、スタッフ会議には、同レベルの知識をが得られるような勉強会を毎月取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や管理者交流会に参加し、サービスの質の向上に向けた情報交換を行いながらレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、居宅ケアマネより情報を収集して、必ず本人と面談を行い、生活状況や心身の状態を把握している。本人の思い、要望を尊重し、安心して過ごしていただけるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人の思い、現状をしっかりと確認し、受けとめ、これまでの生活歴を全職員が共有し、把握しながら、お互いの信頼関係が保てるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、本人の思い、家族の希望等を話し合いの中で聞き取り、また、どのような事に不安を感じているのかを傾聴しながら、本人にとって最良のサービスは何かを見極め、提案しながら合意を得た上でサービス提供を行い、一日でも早くホームの生活に慣れていただくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に買い物に行き、新鮮な食材を選んだり、調理やおやつ作りを共にして、食事・おやつを楽しんでいる。又居室の掃除も時間を決めて、スタッフと共に行っている。又、家庭菜園で育った野菜を共に収穫することで季節を実感していただき、食にも興味をもってもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の身体等に変化があれば、ご家族様と密に連絡を取り合い、ご本人の思い、ご家族様の思いを尊重しながら対応し、ご本人と家族の絆を大切にしながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者個々の馴染みに場所(自宅や近隣の場所)が疎遠にならないよう、本人の希望に併せて外出の支援や家族との連絡調整によって支援している。また、希望があれば馴染みの美容室に行っている。	利用者のこれまでの馴染みの人や場所の情報を把握し、電話の取次や年賀状の代筆、行きつけの美容室へ出かけるなど、関係継続のための支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆さんと一緒に計算ドリルをして、答え合わせをしたり、おやつ作りを楽しんだりする中で、自然に支えあう気持ちが芽生えている。全体で関わられるような問いかけや、レクリエーション等をスタッフが考案し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話等でご家族様の相談に乗ったり、できる限りの対応を行っている。退居されても、その後の経過を家人や、施設の方々にお聞きしたり、時には、施設に訪問して懐かしく会話し、良好な関係が継続出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の思いを引き出すような言葉かけや会話に心掛けている。心理面でも思いをくみ取るように努めている。スタッフ会議やケアカンファレンスなどには、各スタッフの意見などを聞いて、プランに反映させている。	職員は日ごろの会話などから思いを把握するよう努めている。把握した意向は、申し送りやスタッフ会議の中で職員間で共有を図り支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族様や関係者からこれまでの経緯や生活歴、暮らし方などの情報を収集し、把握している。入居後もご家族様やご本人からも情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の生活のペースやリズム、体調を把握するよう心掛けている。日々の生活の中で、できること・できそうでないことを見つけるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしさを大切にした介護計画を作成するため、サービス担当者会議の場で関係者全員で話し合いを行っている。その際、本人が抱えている課題に向き合い、意見や諸提案いただきながらその意に反映した介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を踏まえ、介護計画を作成している。毎月全員でモニタリングを行い、必要に応じて見直している。利用者の急変時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容に沿ったケアを実施し、その結果を毎日ケース記録に記入している。記録やアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い、6ヶ月に一回、極力全スタッフが情報を共有しながら見直しを行い、新たな介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況に応じて、通院での付き添いや買い物などの支援は既存のサービスに捉われないこと柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の協力を得て、様々な催しや作業を楽しむ機会を作っている。地域の祭りや行事などにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多賀内科との連携を図り、往診も定期的に行っている。連携医以外の受診を希望されるときはご家族様同行の受診をお願いしているが、不可能な時にはスタッフが受診同行している。	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。家族同行の受診時は口頭で情報を提供し、受診後は書面で情報提供があり、情報は家族と共有され適切な支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を非常勤で配置しており、不在の時には併設の通所介護の看護員が対応する措置を取っている。また、介護職員が日々の関わりの中で入居者の身体状況に関する情報を共有しており、入居者の健康状態や急変時には看護師との連携により適切な看護や医療が受けられるよう体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、管理者が日々入居者の様子を見に行き、医療関係、ご家族様と連携を取りながら早期に退院できるようケースワーカーとの連携も密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期のケアについて書面で説明し、ご家族の意思を確認している。また、重度化した場合等について、必要に応じてかかりつけ医、協力医との連携を行いながら看取り介護を行うための看取り介護指針を整備し、その方針の共有を図っている。	入居時、終末期ケアについて説明し、受け入れられている。指針も整備され、看取りについて勉強会を行っている。利用者の状態の変化に対応するため、入浴用リフトを導入するなど、利用者や家族の安心に繋げるとともに、職員の介護環境の整備に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフが年1回、AEDの実践講習を受けている。また、事故対応マニュアルを作成しスタッフへの周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を入居者と共に、夜勤間想定を含め行っている。運営推進会議の席上でも地域からの協力をお願いし、地域の防災訓練にも参加していることで協力体制が図られている。	火災想定での避難訓練を消防署とともに年2回開催している。開催時には近隣住民にも声掛けしている。備蓄品は定期的に見直し、入れ替えや補充をしている。	今後も、夜間や地震災害等、各種災害を想定した訓練の実施や、職員全体で話し合いシミュレーションを行う等、継続的な取組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人のプライバシーやプライドが守れるよう日々のケアの中で心掛け入居者の尊厳を損なうような対応があった場合には、管理者が指導し、適切な声掛けができるように努力している。	「利用者の人権を尊重し」という理念に基づいて、温かい思いやりのある言葉かけや対応に努めている。申し送りやスタッフ会議で確認し、不適切な対応があれば適宜改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを尊重し、ご本人のやりたいことや、やってみたいこと物づくりなど実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは一応決まっているが、その日の一人ひとりの体調や気分に合わせて生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人好みの服を自由に着ていただいている。訪問美容室を利用したり、希望者には馴染みの美容室へ行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片づけなどは入居者と一緒に行っている。入居者、スタッフが同じテーブルを囲んで同じ食事摂りながら楽しく食べられるよう家庭的な雰囲気作りを大切にしている。	利用者と食材の買い出しに出かけたり、プランターで栽培、収穫した季節の野菜を食材にしたりしている。職員と一緒に食事をしながら献立を話題にするなど家庭的な雰囲気である。利用者の嫌いな食材も食べられるよう調理を工夫し栄養が偏らないよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日把握し記録している。水分はいつでも気軽に摂れるような工夫とおやつ時や就寝前の補給に配慮しながら1日1500ml以上摂取している。レベル低下の方や呑み込みの状態が悪い方には、刻みやトロミなどで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っており、可能な限り自力で歯磨きを行っていただいている。就寝前はポリドントの義歯洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの入居者が自立している。たまに、トイレに行くことを忘れる方がおられるため、廊下歩行時、トイレ誘導に配慮し、自力で排泄出来るよう支援を行っている。	入居者はほぼ自立しているが、一人ひとりの排泄状況を把握するためのチェックシートを活用し、声掛けでトイレに誘導する等、入居者全員の自立した排泄に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、果物、繊維質の多い水溶性食材を使い、水分も時間を決めて摂取できるようにしており、毎朝、ヨーグルトを提供している。廊下歩行、体操も取り入れながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的には一応決まっているが、希望者には入浴日でなくても入浴できるよう対応している。	週2回午前中の中の入浴となっている。個浴でゆったりと入浴出来るよう支援し、入浴を拒む方へは無理強いせず対応を工夫して入浴につなげている。ゆず湯や入浴剤を利用する等、個々に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整え、スムーズな入眠につなげている。日中も疲れが見られたり、希望する人は休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋は個人のケース記録に綴り、スタッフが内容を把握できるようにしている。状態の変化が見られたときは、日々の経過記録を基に看護師からかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野では、一人ひとりの力を発揮してもらえるようにお願いし、できそうな仕事は極力頼み、終了後は感謝の気持ちを言葉で伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や買い物に出かけている。年間行事計画を作成し、外出など月1回は実施している、地域の協力を得て、地域の祭りや公民館祭りなどにも参加している。	定期的な年間行事は担当者を決め、季節や利用者の希望に応じて毎月実施している。気候に応じて事業所横で日光浴をしたり、散歩に出たりと事業所外で過ごせるよう適宜支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個々で所持していないが、ご家族様の了解を得て、外出に出かけたり、買い物に出かける際には、お小遣いとして持参し、金銭感覚を失わないよう本人の意思で必要品等を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたいときかけられるように支援したり、かかってきた電話には会話しやすいように支援している。又、手紙や葉書のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からは、調理の音やにおいがし、旬の食材を取り入れながら季節を感じてもらっている。夏にはレースのカーテンからすだれに取替え涼しさを取り入れたり、季節に応じた掲示物を展示している。	共用空間は、大きな窓からの採光が明るく穏やかである。壁面は、利用者の作品や外出時の笑顔の写真で飾られ、温かい雰囲気である。食堂と居間は一体の造りで、調理中のおいや音等、五感が刺激される空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下の奥にもソファやベンチを設置し、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士で集まって過ごしたりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限することなく、馴染みに家具等を持ち込んで使用していただいている。家族の写真も見えるところに置いたり、自分の作品を飾ったりして、本人が我が家のように居心地良く過ごせるよう支援している。	居室には、利用者の馴染みの品々や家具が持ち込まれ、以前の生活を継続できるよう支援している。また、家族の写真やボランティアの方と制作した季節の折り紙などが飾られ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない人には個別のネームを取り付けたり、また、トイレ、浴室、廊下などの移動空間に手摺りを設置し、出来るだけ自立歩行が出来るよう安全面に配慮している。		